

要 覧

OUTLINE

群馬県畜産試験場

Gunma Prefectural Livestock Experiment Station



本館および総合実験棟

〒371-0103 群馬県前橋市富士見町小暮 2425

TEL 027-288-2222(代) FAX 027-288-2243

Livestock Experiment Station

2425 Kogure, Fujimi, Maebashi, Gunma 371-0103 Japan

ホームページ
Eメールアドレス

<https://www.pref.gunma.jp> (群馬県ホームページ)
chikushi@pref.gunma.lg.jp

組織構成

ORGANIZATION



(研究職のうち獣医師4名)

飼料環境係

Feed and Environment Section

- ・ 飼料作物の省力多収栽培技術の開発
- ・ 飼料作物の収穫調製技術の開発
- ・ 家畜ふん尿処理及び利用技術の開発
- ・ 低コスト臭気対策技術の開発



開放型畜産施設向けネット式脱臭装置



高タンパク質自給粗飼料の生産調整技術の開発



畜産環境に配慮した生分解性高分子凝集剤効果の検証

酪農係

Dairy Cow Section

- ・ 乳牛の低コスト生産技術の開発
- ・ 牛乳の高品質・高位生産技術の開発
- ・ 温室効果ガスの測定及び排出抑制技術に関する研究



搾乳ロボット内での乳牛呼気ガス測定

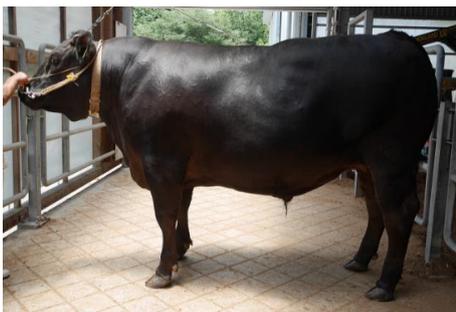


個体識別ドアフィーダを使用した飼料給与試験

肉牛係

Beef Cattle Section

- ・ 肉牛の肥育期間短縮に関する研究
- ・ ゲノム育種価を活用した効率的肉牛生産技術の開発
- ・ 群馬県産牛肉のブランド力向上に関する研究
- ・ 温室効果ガスの測定技術に関する研究



黒毛和種短期肥育試験(24ヵ月齢出荷)
: 枝肉重量 572kg、胸最長筋面積 81 cm²、BMSNo.12

枝肉撮影用カメラを用い、群馬県産牛肉の脂肪交雑の細かさを評価

繁殖技術係

Breeding technique Section

- ・牛の繁殖技術に関する研究
- ・優良受精卵及び子牛の生産と供給
- ・黒毛和種繁殖基礎雌牛の選抜改良



新牛舎で生まれた子牛



新繁殖育成牛舎(令和4年5月完成)

養豚係

Hog raising Section

- ・豚肉の低コスト・高位生産技術の開発
- ・豚の人工授精用精液の生産及び配布



繁殖能力と肢蹄改良に向く種雄豚



繁殖雌豚の光線管理

養鶏係

Poultry Section

- ・鶏卵・鶏肉の低コスト・高位生産技術の開発
- ・上州地鶏の改良増殖と供給



鶏の経済能力検定及び長期飼育技術の開発



国内最大級の地鶏「上州地鶏」

沿革

HISTORY

明治	31年	(1898)	群馬県農事試験場で家畜を飼養
	38年	(1905)	前橋市岩神町に群馬県農事試験場畜産部として発足
大正	9年 4月	(1920)	群馬県種畜場として独立
	11年	(1922)	勢多郡富士見村大字小暮へ移転、前橋で豚・鶏業務を継続
	12年 11月	(1923)	主な施設の建設、移転を完了し、牛・馬・山羊を飼養、改良増殖、生産物の配布並びに技術指導等、種畜場本場として本格的に事業を開始
昭和	19年 3月	(1944)	前橋の豚・鶏業務を吸収し、総合種畜場として内容を充実
	37年 4月	(1962)	新しい技術開発の要請に応えるため「畜産試験場」に改称し組織改編
平成	元年 4月	(1989)	組織改正により受精卵移植課、吾妻肉牛分場を新設
	15年 3月	(2003)	畜産試験場再編整備計画に基づく本館、実験棟、養豚・養鶏・大家畜畜舎等主要施設の整備を完了
	15年 4月	(2003)	部課体制から8グループ・1センター体制に組織改編
	21年 5月	(2009)	市町村合併により所在地が前橋市富士見町小暮(現在地)に変更
	26年 4月	(2014)	6係・1センター体制に組織改編
令和	3年 3月	(2021)	拠点整備交付金を活用して搾乳牛舎増築整備
令和	4年 2月	(2022)	拠点整備交付金を活用して育成牛舎整備
令和	4年 4月	(2022)	吾妻肉牛繁殖センターを廃止し、7係体制に組織改編
令和	4年 5月	(2022)	拠点整備交付金を活用した黒毛和種繁殖育成牛舎が完成

用地と建物 LAND AREA AND BUILDINGS

区 分		面積・棟数
用 地 (m ²)	本館・畜舎	248,779
	畑	418,779
	防風林その他 貸付地	43,298 0
	計	710,856
建 物 (棟)	本館(総合実験棟)	1
	畜舎・実験施設	30
	倉庫、その他	14
	計	45

施 設

EXPERIMENTAL PLANT

エリア名	施 設 等 名 称	エリア名	施 設 等 名 称
本 館	本館・総合実験棟、研修棟、倉庫	環境研究	ふん尿処理実験棟、風洞実験棟
酪農研究	搾乳牛舎、哺乳・育成牛舎、庇陰舎 等	飼料研究	飼料作物棟、農機具格納庫、 給油施設 等
肉牛研究	肉牛舎、敷料庫	クリーンセンター	堆肥舎、発酵施設、乾燥施設、 汚水処理施設、脱臭施設 等
繁殖研究	繁殖育成牛舎、受精卵採取棟、供卵 牛舎、堆肥舎 等	その他	隔離畜舎、繋留舎
養豚研究	種雄豚舎、繁殖豚舎、育成豚舎、 検定豚舎、試験豚舎 等		
養鶏研究	成鶏舎、種鶏舎、肉用鶏舎、ふ卵舎、 育雛舎 等		

家畜飼養頭羽数、飼料作物作付面積 NUMBER OF LIVESTOCK, FIELD PLANTED AREA

牛	区分	おす	めす	去勢	計
	ホルスタイン種(成牛)	—	66	—	66
ホルスタイン種(育成牛)	—	54	—	54	
肥育試験牛	—	2	23	25	
黒毛和種繁殖牛	—	87	—	87	
計	—	209	23	232	

鶏	区分	おす	めす	計
	試験鶏	—	1,175	1,175
種 鶏	1,026	1,037	2,063	
計	1,026	2,212	3,238	

豚	区分	おす	めす	子豚	計
	ランドレース種	6	4	30	40
大ヨークシャー種	4	—	—	4	
デュロック種	4	1	—	5	
交雑種	—	8	136	144	
計	14	13	166	193	

草種	面積 (延べ)	利用方法
本場	12ha	サイレージ
混播牧草	8	ロールサイレージ
イタリアンライグラス	10	ロールサイレージ
その他	10	ロールサイレージ
計	40	

位置と自然環境

LOCATION AND NATURAL ENVIRONMENT

本場 赤城山南麓に位置し、標高 360m、南斜面で表層腐植黒墨土、年平均気温 15.2℃、降水量 1,082mm

交通ガイド

◇畜産試験場◇

◆自動車利用

関越自動車道 前橋ICより約40分、駒寄スマートICより約25分、赤城ICより約20分

◆バス利用

JR前橋駅から関越交通バス「富士見温泉行」「国立赤城青少年交流の家行」畜産試験場入口で下車(約35分)